



# メイクを洗い流す シヨ糖脂肪酸エステル

伊東 陽子



## 1.メイクとクレンジング

肌を健やかに保ち、美しいメイクに仕上げる化粧品も就寝前には落とします。クレンジングクリームは、垢や化粧品などの強固な汚れを落とし、肌に付いた污垢の清浄やメイクアップリムーバーとして優れた機能があります。

クレンジング剤の歴史は紀元前150年頃、ギリシャの医師 Galenがミツロウとオリーブ油にローズウォーターを加えて作った拭き取りタイプのコールドクリームが起源とされます。やがて水分の少ないコールドクリームがメイクアップを良く落とすことがわかり、水のないタイプへと移り変わりました。界面活性剤が用いられるようになってからは、現在のクレンジングクリームと呼ばれるようになりました。

## 2.植物系原料由来のシヨ糖脂肪酸エステル

シヨ糖脂肪酸エステル(SE)は、サトウキビ由来のシヨ糖を親水基に、植物油由来の脂肪酸を親油基とする非イオン性の界面活性剤です。SEは、1959年に日本で食品添加物に認可され、年間約4,000トンの市場を形成しています。食品用乳化剤としては、古くから乳製品、製菓・製パン、健康食品、冷凍食品に応用されており、国際機関 (FAO/WHO食品添加物専門家合同委員会)において高く評価されています。

化粧品市場のニーズにおいても、ますます安全性を重視した製品が求められています。特にスキンケア製品市場では、肌に柔軟性を与え、最小の脂質除去で肌を保護する安全性の高い界面活性剤、あるいは油料原料としてSEが利用されるようになってきました。

## 3.クレンジング用乳化剤コスメライクシリーズ

クレンジングクリームには油剤を安定に乳化するためにステアリン酸スクロースを多く用います。最近のメイク落としの消費者ニーズは、必ずしも強力洗浄だけが目的ではなく、肌に必要な成分を取り過ぎない性質など、機能性の高い洗浄が求められており、簡便さから洗い流すタイプが主流です。構成脂肪酸がステアリン酸の場合、常温での水溶性が低く、

水で洗い流すことが困難でした。従来のSEでは困難な組み合わせが、処方進化によって可能になりました。低刺激性と機能性を両立した今までにない新しいクレンジング製品の開発が加速しています。

シヨ糖脂肪酸エステルコスメライクS-160は、親水性型(O/W型)クレンジング用乳化剤です。植物系原料のコスメライクS-160は、みずみずしく軽い使用感のクレンジングクリームが調合できます。肌になじみやすく、メイクをすっきり落とし、洗い流し後はしっとりとした効果も期待できます。

コスメライクS-160を乳化剤としたクレンジングクリームは、市販品と同程度のクレンジング力がありますが、皮膚への刺激が弱いことが特長です(図1、表1)。

今後はアレルギーなど皮膚刺激に敏感な方や肌の弱い高齢者向けの商品需要がさらに増えることが予想されます。特有な機能をいかし、ニーズに応える開発を目指しています。

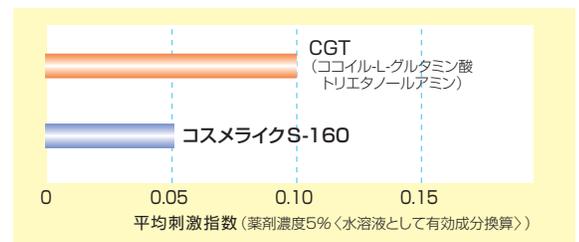


図1 ヒトパッチテスト

配合原料	配合比率 (wt%)
コスメライクS-160	3.00
1,3ブチレングリコール	7.00
スクワラン	30.00
ホホバ油	10.00
水酸化ナトリウム	0.03
カルボマー	0.15
精製水	balance

表1 クレンジングクリーム処方例

参考資料

- ・食品化学新聞,2008.1.17
- ・高橋雅夫,化粧品原料の製品技術,シーエムシー出版,2003
- ・福田夏,森俊樹,化粧品原料としてのシヨ糖脂肪酸エステル,油脂8月号,2007